

令和6年度 檜原村村民対話集会

日時：令和6年9月24日（火） 19時30分～21時00分まで

場所：人里コミュニティセンター

村側出席者：村長、副村長、教育長、村民課長、総務課長補佐、議会事務局係長、農林係長

参加人数：9人

### 《意見交換》

■2点お伺いさせてください。まず一点目ですが私もそろそろ歳が重なってきまして、老後がちょっと心配になってきてます。檜原村ですと、他の市町村に比べると、受けられるサービスの量が少ないんじゃないのか。という印象を持っています。それに代わる方法として、やすらぎの里で何か対応していただけるのかどうか、そのようなことを教えていただきたいのが一つと。以前、前回やすらぎの里で開かれた対話集会の中で、災害についてどういうお考えを持っていますかという質問をさせていただいて、橋梁、橋の強化ですね。あと上水道の地震に対する優れたものを使用しているというお話をいただきました。でも昨今線状降水帯ですとか、地震があつて、結構被害があつて避難所等も開設されています。このコミセンも避難所の一つと指定されていますが、例えばこの面積ですと、何人ぐらいの避難者を受け入れられて、どういう避難時の使用物品があるのかを教えていただきたいと思います。

以上の2点を教えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

### →【村長】

サービスっていうのは介護の関係ですね、介護になったときに、どういったサービスが受けられるかっていうことだと思います。介護保険で決められてまして、村では、デイサービスだとか、ショートステイだとかいろんなサービスのメニューはあるんですけど、なかなか檜原村まで外部の人が来てくれて24時間体制で見守りだとかいろんなことはやってないのが現状ですので、その辺につきましては、村のですね介護の関係のところに行っていただいて、ぜひですね、相談、その細かい相談はそこでやっていただきたいと思います。

前から言われてるんですけども、介護保険を払ってるのにサービスが受けられないのはもう本当にね、払ってる人に対して、まずいじゃないかということで当時やすらぎの里ができたのはそのために実は作ってるんですね。ですので、そのようなことがないような形で、今いろんなサービスに繋げるようなことはやってますけども、都会と比べて檜原は少しサービスのメニューとかそういうのが少ないのは確かだと思いますので、それについていろんな形で対応させていただきたいと思っております。災害発生した場合のここのはですね、何人ぐらいとかそういうのはちょっとですね、今日は総務課の係長が来ていますので、その辺

でわかる範囲内でちょっと答えていただきますので、よろしくお願いします。

→【総務課長補佐】

よろしくお願いします。災害があったときに避難所指定避難所ということで人里のコミュニティセンターもおっしゃられる通り、指定避難所ということで指定されておまして、こちらのですね、収容人数なんですけど、地域防災計画上によりますと 138 名という形になっておまして、確かにこのホールとあと 2 階にも部屋がありますよね全部建物合わせて 138 名の収容人数避難者を収容できるような形になっております。それであと災害対策の物品ですよね、どんなものがあるかということなんですけど、今こちらのコミセンの外に、防災備蓄庫が和田の分と事貫の部分があるんですけど、あの段上のところに置いてあるんですけど、そちらのところに非常食ですとか、あとはブルーシートあとですね簡易トイレみたいなものですとか、あとは飲料水ですね、あとは携帯用ラジオですとか、いろいろ細かい災害用物品が置いてあるんですけど、そうですね当然、非常食なんかは期限がありますので、期限が来るとそちらを入れ替えて定期的に入れ替えて、その入れ替えるときにですね同じものだと多分味覚も飽きてしまったりとかってあるかなと思うんで変えてみたりだとか、あとはこういう物品もですね、年を追うごとに新しい商品が出て前より美味しいものが増えてきていますので、そういうものを積極的に取り入れるようにしていますね。あとごめんなさい毛布、災害用の毛布も備蓄してあります。あとは発電機ですねこちらの人里コミセンですと向こうの部屋、会議室の横の二つ部屋がありますよね、発電機が入ってまして、紐を引っ張って始動するんですけど、ガスの線に繋がなきゃいけないんですけど、ガスの栓に繋いでいただいて紐を引っ張っていただくと発電してそこから電気を取ることもできますので、停電してしまった場合なんかはそういったものの活用を想定しているところです。雑ばくな説明ですが、以上です。

■別によろしいですか。能登の地震のときでしたかねどこかの地区でこういう建物の中に避難して、さらにその中に簡易テントを立てて、家族単位でプライバシーの保護、あと感染症対策をした地区があったと思います。そういうのもちょっと考えていただきたいのと、やっぱり長期にわたって避難生活のこと感染症のこともちっと心配されます。色々な避難所で、今ですとコロナやノロやインフルエンザ等、そういう感染症もだいぶ発生することが多くなっていると思いますが、その辺については何か対応とか考えていらっしゃいますでしょうか。

あともう一点このコミセンが 138 名という。収容の人数等を教えていただいたんですけど、数年前ですか。大沢地区と事貫地区の住民の方が台風でこちらに避難してきて、もうその人数でちょっと許容オーバーかだということを感じたことがありました 138 名という根拠をちょっと教えていただけますでしょうか？

→【総務課長補佐】

すいません今のご質問なんです、すいません順番が逆になってしまうかもしれないんですが、この面積のその 138 名の収容人数の根拠ということなんです、1 人当たりの収容人数が 3.3 平米となっておりましてこちらのコミセンの場合ですと、458 平米の居室面積がありますので、そちらを 138 人で割り返すと、3.3 平米で割り返すと 138 名という。人数になっているところなんです。あとですねこのコミセンのこのホールの中の仕切りみたいなものがないのかということなんです、現在そういった仕切りのようなものは避難所生活が長くなった場合にプライバシーのことを考慮してそういうなんていうんですかね部屋みたいに区切るものことだと思うんで、部屋のように区切ったりとか、あとテントみたいになっているものということなんです、そちらの方は今、村の方では用意してないのでその辺もちょっと今後の導入していけるように考えていきたいなとは思ってます。今、村の方で導入しているのが段ボールベッドっていいまして、ダンボールでできてる組み立て式のベッドがありまして、そちら今こちらのコミセンには置いてないんですけど、やすらぎの里とかには置いてありましてそちら組み立てると、床で寝るよりは若干硬いんですけど、それで床で寝るよりは、いいかなとあと椅子代わりにもなったりとか、そういう段ボールベッドっていう防災備品を今積極的に導入しているような状況ですね。あと感染症対策についてどのような考えがあるかっていうことなんです、こちら確かにコロナでやはり今はだいぶ落ち着いてきてはいるわけなんですけど確かにこれだけのそう広くはない面積で、もしコロナの人がですとかインフルエンザの方なんかが入ってきてしまうと蔓延してしまう可能性があるというところでは、やはりそうですね避難所を活用するにあたっては検温ですとかあとは手指の消毒ですとか、若干発熱症状がある方については、隔離するといってももう部屋が限られちゃうんでなかなか難しいんですがそういう方についてはまた別の人里ではなくなくなってしまいうんですが別の避難所の方に職員が連れて行くとかなかなかすぐに対応できるような場所っていうのはなかなかないんですけど、できる限りそういう感染が蔓延しないような方法で考えていきたいなとは担当では思ってます。

ありがとうございました。

→【村長】

今担当が話した通りなんですけども実は避難するその人口に対して、避難所がそれだけの容量を納めていればいいんですけども、どこのあの地区においても全体の避難者を全部収容できるってことはどこも多分ないと思いますので、それについてはもしそういうことが発生した場合には、今言ったような形で違うところへ連れてくとか、いろんな自宅の安全なところに避難してもらおうとかそんな対応させていただきたいと思います。そしてあといろんな機材ですね、機材については時代とともにいろんな形で新しいものとかそういうふうなものがあれば、村でも有効だと思うようなものに関しては全 8 地区に避難所がありますので、いろんな形で一斉に整備していくような形も考えております。そして、あと私なんか

も防災にいたときに電気ですね、電気のソーラーの発電装置を屋根に付けて、そして蓄電をして、せいぜい3日～5日になってしまうんでしょうけども、そういうふうなこともつけたらいいんじゃないかということで提案をしているときもありましたので、今後線状降水帯だとかいろんな形でどんな災害が起きるかわからないので、これからはそういう形でそういうふうな整備にも心がけていきますので皆さんからもいろんな形で要望、今日お聞きしましたけれども、そういうふうな形のことを整備してほしいということで、今後考えていきますので、よろしくお願いします。

■まだ移住してきて1年未満で、あまり村の状況もよく理解できてないものが生意気なことを申し上げて恐縮でございますが、今のその災害時の備蓄関係でちょっと伺いたいと思っております。先ほど非常食や飲料水というお話がありました。非常食はまずちょっと置いといても、飲料水というのは人間が生きるためにはもう何が何でも必要なもので、これは1人当たり1日3リッターぐらいは必要であるというふうによく言われております138名の方がこういう収容可能というお話がありました、ここで実際に備蓄されている水の量これがどのぐらいあるのか。それと今の災害のときに特にあの、いわゆる外国の軍隊なんかが、浄水器簡易浄水器のようなものを常備してて、異常な水でも浄水器を通せば飲める水になるというような機器を持って歩いている、というのを聞いたことがあります自衛隊みたいなものが来て、ちゃんとその浄水器、浄水の車が来て、やれるんだったらいいんでしょうけど、そういうのがない場合には、例えば備蓄の水だけじゃなくてそういう浄水器を備えたものをこの備蓄に置いておくことで、例えば南秋川から直接汲んできて、それを浄水して飲料にすることも可能なのかなというふうに思うんですがその辺でいかがでしょう。まず、上水の量を伺いたいと思います。

→【村長】

水とかそういうのは人口で合わせて各備蓄庫に備えている。

■例えば今単純に申し上げたのは138人1日3Lもし使うとすれば仮に1週間ここで頑張らなきゃいけないとなると3000リッター必要になるんですね。そんなに置いとけるものなのかというところまず無理だろうと思います。そんなスペースもないですし、それでそのだけの水をさっきおっしゃったように非常食のように維持管理をして、期限が来たらどんどん消化していけるかって言ったらそれは絶対無理だと思う。そうすると、後で私が申し上げたようなその浄水簡易浄水器のようなものをたくさん用意しておいて、例えば川からでも組んできたものを浄水して、それを飲料に使えるような仕組みを持っていれば、スペースもそんなにいらんんじゃないかと思うんですね。最低限例えば最初の3日だけ、初動の3日だけ飲料水が備えてあれば、あとはその川の川と浄水器をうまく使って生き延びることができる可能性って増えるのかなというふうに思うんですね。その辺についてお伺いたい。

→【総務課長補佐】

138 人一斉に現地はどうなってるかはいすいません今、その水の量ということなんですがその 138 人分が 1 週間、足りる分の水の量は確かにないわけですし、ただ実際ですねその人数が全員来るっていうわけではなくて各自治会のその大体何割っていう形で一応その備蓄、保存水の方は備蓄しているようなところなんです。今提案がありました通りですねその川の水をろ過してっていうんですか、飲料水に変えられるような装置があるということなんですが、そちらもですね、どれぐらいで導入できるのかなかなかやはり人里だけになってわけにもいかないと思いますんでその全村的に 8 つ避難所がある中で揃えていくのにどれぐらいコストがかかるかっていうところも考慮してですねでも、そうは言っても災害いつ来るかわからない部分なんで、その辺についてもこちらで調べ、調査させていただいてそれでちょっと導入できるかどうかについて、検討していく必要があるかなと考えております。

【司会】

他にいかがでしょうか？

■簡易とかって販売をしている。例えば Amazon なんか検索するとただそれってやっぱり個人持ちになるので、村とか自治会とか、そういう形でも国はちょっと容量が足りない。何かそういうものを例えばそ 1 本あたりで確か 5、6 0 0 0 円から 1 万円ぐらい買える。それを 1 万円ついたらそれはそれでいい値ですけど、ある程度本数とか揃えておけばちゃんとした浄水器じゃなくても、使えれば少しずつでも合わせれば備蓄の足しにはなるのかな、ちょっと素人ながら思うんですね。ですからぜひそこは検討していただけたらよろしいんじゃないかなというふうに

→【総務課長補佐】

すいません防災関係の業者さんがよく窓口に来ますので、そういったものがないかっていうのを今度確認してみたいと思いますのでよろしくお願いします。

【司会】

他にいかがでしょうか？

■AED についてちょっとお伺いしたいんですけども、先日もちょっと AED がもしあればっていう状態があったらっていう話を聞きまして、そのコミセンには私はあると勘違いしたんですけども、なかったってということで昔は何かあったみたいなんですけどもコミュニティセンターの鍵が閉まっています。基本的には開けられないと私が今管理させてもらっているところには今置いてもらっているんですね、私が使い方をまずあの講習受けまして、何かあったときに持って駆けつけられるんじゃないかと思ってまして置いていただきました。コミュニ

ティセンターにはあるんじゃないかってみんなきつと思ったんですけどなかったんですね、すごいそれがもしあれば救急車に助けられる命があるんじゃないかなっていうふうに思いまして、ただこのコミュニティセンター管理だとやっぱりどうしても鍵問題がありまして、鍵どうするっていうことになりますので、あの他のところに何か開けて何か管理できるやつありますよね。どういうあれかわかんないバーンて打ち破って開けるタイプの何かあったかと思うんですけどもし地域の方だけここにあるよって、地域の方だけわかってれば別に村外の方が万が一わかんなくても、そのわかる場所にあれば、もしかしたらコミュニティセンターごととか自治会館ごととかにもしあれば、あそこに行ったらあるっていうみんな認識ができると思いますので、もし予算があれば今多分リースだと思いますので、何年かごとに買い換えるっていうこともしなくても借り入れると思いますので、ちょっと設置があればお年寄りも多いですので、そういうそのときに助けられるような訓練が必要ではありますけども、もしあれば順番通りにやれば誰でも簡単にできるようなものに今なってますので、もしそういうのがコミュニティセンターごとにあればいいなっていうふうに思いました。

→【副村長】

コミセンにはですね、どこも置いてません。それはやはり鍵の問題があって、置いてないということで、その代わりに昼間空いてる村の施設には順次置いているところなんですね。それでこの間八王子の自治会館が高速の手前にあって、そこ外にあるのがあったんですね AED が、その辺で八王子市の方にですねという経緯でつけてどういう管理をしているのかってということで調べて、なるべくあの保険とかそういうので対応できるんであれば外に置いといてもいいのかなっていうことでは考えているので、なるべく何かの形でつけられないかなというのは今検討しているところです。

→【村長】

この地区については特にですね、ヘリポートだとか、それから AED の関係が話に話題に乗ってますね。それでできたら店には今言ったような形でつけられればつけられるし、以前からも検討っていうかみんなで話題になってですね、鍵がないから盗まれたらどうか、今言ったような形で番号をやるようなダイヤル式のやつとかそういうので地域のものしか知らないような形にするとか、今言ったバンッと壊して入れるとか何かの形で人の命を守るといって、こういうコミセンには私としたらもうそういう時代ですし、つけたいなと思ってますので、つけるという約束ではないんですけども、つける方向で検討させていただきたいと思います。

→【副村長】

各家庭に配ってあるハザードマップにはですね、AED が置いてある場所、一応あるとは思

ます。あと昼間とかそういう利用がある場合には晴ノ舎さんの方に置いてあるってことで多分、古いハザードマップだとないかもしれないんですけど、だんだん更新していきます。そうなったときには本当空いてるときで構わないと思いますのでご協力をお願いできればと思います。

■うちは来週契約します。セコムさんと話をしまして、セコムさんの方でリースで借りられると全自動ですね、講習受けてなくても、置いてできるんですね、ただ、飲食店とか施設関係だと、場合によっては医療従事者に準ずる資格っていうのが要件が必要になってしまうということがあって、講習も一応私受けるつもりでおり、そういうことがハードルがあるっていうのはあるみたいです。名前忘れちゃったんですけど、4 要件あって、近所に医者がいないとかですね、あとやれる人がその資格を資格っていうか講習を受けているとか、そういうものを求められる場合があるらしいんですね。一応セコムともその辺、協議してて私自身はまだ講習も受けてないもんですから、それを受けるまでこれを置けないかって話をしたらそんなことはない。今全自動でガイダンスで全部やってくれるんで相当正直私どものような飲食店であればそんなにめちゃくちゃ頻度があるわけじゃないだろうから、その要件から外れるんじゃないかと言ってもらってるんで、やるつもりでおります。ただ設置自体は1週間ぐらいかかるらしいのでおそらく10月入ってからになると思うんですけどもそういう意味では晴ノ舎さんだけじゃなくてうちでもお手伝いできる部分が出てくればと思っています。

→【村長】

ありがとうございます。AEDの講習はですね、消防団員はほとんど受けてますし私も受けるいろいろな形で受けてる人がいっぱいいると思いますので多分そういう講習とかそういうのは多分クリアできると思いますので、名前を使っていただいて結構です。

【司会】

他にいかがでしょうか？

■令和元年頃かな、出畑で役場の指定されまして、避難と災害の避難の仕方っていうことでその頃にちょっと講習受けた実施してたんですけど、コロナの関係で立ち消えになっちゃって今度は最終的に避難訓練をしましょうっていうところでコロナにかかっちゃって、発生しちゃって避難訓練もできないまま終わっちゃって立ち消えになったままなんですけどあれから五、六年たってて、だいぶ避難も多分、7年経つとだいぶ高齢者になっちゃって避難できないような人もかなり増えてきちゃっててその辺がちょっと大雨がきたり、地震が来たりすると避難の役場の方の避難の基準というの 量だとかどのぐらいだとか、そういうのでレベルに行くととかありますけども、その日、いつ雨量はどのぐらいで避難するのか

もう一つは我々高齢者になってくると避難ができない人もいると思うんで、その辺のところを役場の方の考え方があったらちょっと教えていただきたいなと思います。 雨量の関係とかがあると思うんですけど、レベル4とか5とかありますね。

→【副村長】

避難のレベルが1から5段階あって、最初が高齢者の方とかそういう方を中心に動いてくださいよとか、それでだんだん今度全部でとか、なってってそれで5段階で最後にはもう避難ができない場合はもう自宅にとどまって安全なところについていう形で、後ほど説明しますけどもそんな形で5段階、それに対して注意報だとか警報だとか、土砂災害警戒情報とかそういうのが出た段階でまたそのレベルが変わっていくという形で、その辺はまたお話をさせていただきます。

■これはですね自治会単位でやっぱり考えなきゃいけないんですか。

→【副村長】

その避難の基準についてはもう国で決まっていますんで、そのレベルになったときにはどう避難しなさいっていうのはもう防災無線とかそういうのでやっていくような形になります。個人的に動かなくても、個人、それが出た段階で、テレビの情報なんかでも見ていただいて動いていただくっていう形の安全、自分の判断にもなりますしそれを促すのがテレビだとか、あと村の方の防災無線とか、そういう形で高齢者の方はもう避難してくださいという形とかで流していきます。あとそうですね弱者の関係でその避難に時間がかかるような方についてはですね、災害時要支援者という形の方にはですね個別の避難計画を作っておりまして、そういうときが起こった場合にはどこに避難するとか、そういう形を今もう先に決めてます。希望されてになるんですけども、そんな形で今70人ぐらいの方は今そういうことで登録のような形をされてですね。それで各関係機関ですね消防署とか警察とかと情報を共有しているところであります。

→【総務課長補佐】

それで避難の基準なんですけど、例えば大雨警報で1時間の雨量が70ミリを超えてきた場合はですね自主避難といって、コミセン等に必ず避難しなくちゃいけないわけではないんですが避難の希望があったら鍵を開けて自主避難ができるような体制になっています。また土砂災害警戒情報で土壌雨量の指数基準といいますか、土壌雨量指数基準というのは、水が土の中にどれぐらい水が入ったかっていう基準があるんですが147を超えてくると、もう避難勧告といいまして、基本的には自主避難ではなくても行政の方から避難してくださいという形で防災無線等で、避難を促すような方法をとることになります。それと、警戒レベルっていうのがあるんですけど、その避難の警戒レベルで例えばその警戒レベル1の状



態は気象庁の早期情報なんかを確認してですね、避難の心構えを高めましょうっていうレベルです。警戒レベル2になりますと、洪水注意報ですね、大雨注意報だとか洪水注意報、まだ警報に行く前の段階でして、自ら自主避難といいますか、その避難の参考とする。大体のレベルで警戒レベル3っていうふうになりますとこちらはですねもう高齢者は避難、避難してくださいっていうレベルになりまして、やはりその高齢者の方につきましては避難に時間がかかったりですとか自ら自主避難ができないという方もいらっしゃると思いますので、健常者でしたら警戒レベル3で必ず避難しなくていけないレベルではないんですけど特に高齢者ですとかハンディキャップのある方については警戒レベル3の状態、避難所に来ていただくと。それで警戒レベルが4になりますとこちらも全員避難ということになりますので最寄りの避難所に避難していただくような状況になります。こちらの警戒レベル4になりますともう避難勧告ですとか避難指示が出るような状況になっております。

→【副村長】

村の対応としてはまず自主避難をしたい方がいましたら避難所を開けますんで、避難してくださいっていう放送をかけます。その次に避難に時間がかかる方、高齢者等の方は避難をしてください。それで、次についてはもう皆さん避難してくださいっていう形で大体4段階ぐらいに分けて放送はかけていく形になります。特に夜とか雨が強くなってからの避難はできなくなりますので、その前にある程度の避難をしていただくということで動いていると、もう夜になってすごい雨が続けてても、出ることがかえって危険だってなってしまった場合には、それがいいかわかりませんが、推奨されているのは家の中でも2階の部分ですとか、崖から山を背負っていれば山の崖から遠いところにいてもらって、それで安全をとってもらってというような形、そこにならないのが一番いいんですけども、そういう形でお願いをしているような格好になります。あのハザードマップのところにも警戒のレベルが書いてあると思います。もしご自宅にありましたらご覧いただければと思います。

→【村長】

過去人里で起きた災害のことをちょっとお話させていただくと上平の大沢っていうところの人家の一番上のところに、実は崖崩れがあって水がせき止められて、そこから鉄砲水が出たことで家が何軒か流されたっていう。今でも大川に大きな博打石っていう大きな石があるんですけどけども、それは山の上から流れてきたっていう形のことを聞いております。これは多分明治時代のことだと思います。そしてもう1件ですね私もちょっと本を読んですみたんですけども笛吹で大きな崖崩れがあったということで家は流されてその捜索をしているときに、2次の災害が起きて10何人が災害で流されて亡くなったということが発生しているということで、それがあったということがありますので、大雨だとかそういう線状降水帯とかそういうのが発生した場合には本当に最悪そういうことが発生しますので、本当に気をつけていただきたいと思います。水口の上の方でもですね、1回大野っていうところ

ろがありまして、そこに大きな亀裂が入ったということで、うちなんかも下の方に避難したことがあるってことを聞いていますので、いつ何が起きるかわからないので、皆さんも気をつけていただきたいと思います。以上です。

■村の方で避難の対象としているとは気象庁発表のデータをもとに、レベルいくつっていう、気象庁発表したのを元に、役場の方からも指示が出るわけですかね。

→【副村長】

自主避難についてはですね気象庁の方は待たないです。とりあえず一番危険なのは住んでいる方が知ってると思うんで、もし避難したければ避難してくださいよっていう、まず自主避難をお願いします。その次はですねやはり注意報が出た、警報が出た、特別警報だっていう形で気象庁から出てきますんで、それに基づいて、その基準で避難の段階をお願いしていく格好になります。気象庁の数字とか報道というかそれを基準でやらせていただいています。

■そうしますと檜原ですと独特の地形ですよ。山を背負ってます、ある場所によっては水が出やすいところもあります。実際私が消防団やってるときに本当だったらやっちゃいけないのかもしれないんですけど、大沢地区の住民の方大雨が降って、ここに避難していただきました。そのとき最初に消防団が出動したときに、あの床下浸水の家が出たからあの水防処置をしてくれという指示が出ていたんですが、いざ行ってみるともうその程度のものじゃないと。その地区全体がもう泥くさくて、どこから水が出たり、どっかが崩れたりするかわからない状況でした。それが多分夜の9時頃です。もうそうなりますともう真っ暗でその時点で消防団員を引き上げさせるべきだったと思うんですが、住民の方を置いて、消防団員だけ避難するという。判断はちょっとできませんでした。できたら村の方で、明るい時間帯にそういう対応ができるようにしていただければ消防団員の2次災害も防げと思います。その辺の検討もお願いしたいと思います。

→【村長】

はい今言ったような場所にそういうふうな対応をしていただきたいと思います。要は明るいうちの避難はやってもいいと思いますけども、もう暗くなって水が出ていろんな形でもうにっちもさっちもいなくなって被害っていうのは、避難というのは私もやめた方がいいのかなと思っておりますので、身の安全を守るために副長が言ったようにですね、2階とかそういうところで安全なところにとりあえず避難していただいて、災害に遭わないような形で身を守っていただきたいと思います。

今ちょっと情報自体は消防団の方にも一応流して行動とかそういうふうなものはやっていただくということで、情報を早めに流すということでやっているそうなので

→【副村長】

気象庁のそういう警報が出るとかそういう前にですね、ある程度雨が強くなったりとか、ちょっと危なさそうなどこっていうのがありますんで消防団の方には事前にお話をして、例えばその沢沿いの家で避難できそうもない人がいそうなことにならない前にですね、避難してくださいとか、あるいは行ってみてもらって、もういないよとかっていうの確認してもらってます。福祉の方からは都合がつくところはもう台風なんかだとわかりますんで、村外の親戚のとことかに前もって避難をしているとか、そういうことも最近は出てきてますので、なるべく消防団の方には本当に危ないときにはもう出なくて済むような形で事前に回ってもらって行くようにはしております。

→【村長】

弱者の名簿を作っておりますので、それを警察と福祉の方で把握しているそうですので、それについてもどこの家にもそういう人がいるっていうのは消防団の方にもそういうふうな形で流すような形を最悪は、とると思いますので、よろしくお願いします。

災害だとか、そういう他のものをちょっと質問していただいても結構ですのでサルとかイノシシだとか、そういうふうなものを質問していただいても結構です。

■この頃、車で走ってまして、ちょっと道路、結構木がかぶさっているところとか木が大きくなって、もう道路の近くにあれが倒れたら怖いなというのは相当あるんですよ。今ね、この辺の対策今一部これを切ってくれってところもありますけどね。この辺は役場の方である程度やってもらえるんですか。それとも持ち主がやるんでしょうか？まず持ち主がやるんですかね、基本的にはね。それで、持ち主も結構お年寄りで、その辺のところできない人も結構いると思うんですが。私のところは近くにないんで、そういうあれはないんですけど今非常に走っていてバスなんかも今、都民の森まで入ってくるのは大変だという人もいますよね。観光バスで、この辺のところを少し綺麗にできないものかなとは思ってんですけど、もうほとんど数馬までいくとほとんどがそうなんですから大変なんですけど、どうにかならないかなと思ってます。

→【村長】

今のような質問が各会場では結構出てるんですね。それで草を刈ることから始まって道路の山側ですねそういうところの木がバスにぶつかるということで観光バスが入らないとか、そういうふうな要望も聞いてます。そして今檜枯れ病ということで木が真っ赤になって、その山側のところにいくつか枯れている木があって、そういうふうなものに関しては東京都と村の方で協議をして、どちらが切るってことで、それは近々に対応するというところで話がついております。そして前から以前からの話がある山側の木ですね。スギヒノキが相当大きくなっているということで災害が起きたときに電線だとかそういうふうなものが被害を被

るということで、それについてはぜひ伐採してくれという要望も伺ってます。しかし所有者がいるので、なかなか応じていただけないところもあります。村としましたら以前一番地のところから、そういう考えで檜原緑(力)っていう形のものも含めて伐採を始めたんですね、ずっとそれが始まりで1年か2年でもう立ち切れになってしまったんですけども、行政がそういうふうなことをやっていけば本当に一番良いことだとは思いますが、相当の多額の費用がかかるので、できたら今後の検討課題にさせていただきたいなと思います。とにかく山の10メートルぐらいは少なくとも切らないと倒れたときには道路に影響があると。そして山の上のすぐもう脇のところに大きな木がいっぱい茂っている。これを何とかしたいなとは思ってるんですけども東京都とも今東京都の西建とも会議がある度にですね、そういうふうなことの話は話題にはなっております。

■そうですか。はいよろしくお願いします。それと、あと電線にかかっている電柱まわりですよね。あれNTTですか。切るんですけど、次まだ仕事を残すためにちょっとしか切ってくれないんですよね。あの辺のところはどうにかならないんでしょうかね。本当にちょっと切るだけなんです。うちの周りにもありますけど。また来年の仕事みたいなんですけど

→【村長】

それはね本当にね、そういうふうに私も思います。本当にかかっているところだけ何本か切ってそれで引き上げちゃうんですよ。根っこからねそういうの所有者に了解とって、根っこから切れればいいと思うんですけど本当に次の仕事のことを考えているような仕事をしてるんで、できたら東電にしろNTTにしろ、そういう切り方をしてるのは間違いないですね、そういう機会があったらそういう話はさせていただきます

■よろしくお願いします。以上です。

■行政と一緒に今やらせてもらっているんですけど、一つ言えるのは、せっかくいいシステムを作ってもらったんですけど、人里にはサルがつかないんですマークが。やっぱりサルのマークがつかないんですよ。携帯で見るときに、それで被害は出てるんですよ。特に大沢地区と笛吹か、だいぶ出て騒いでるんですけども、応援に行くことができないんですね。ただ人里の地区と事貫と和田地区の場合には花火があったり電話があったりするから徹底的に追っかけるようには努力してるんですけども、できたらもう少しなんていうのか器具のついたサルそれを組で3組ぐらいあればいいのかなと思うんですけど、全然ないのもつまらないんですね。ぜひそこら辺も村長中心に金を出してやってください。それともう一つですね、サルが好きなユズ、これについてやっぱ村で9月になったら全部取るというような方針をとってもらえれば、サルも減ると思うんですね。どうしても残ってるサルが、2月3月に来てるんで、ぜひこれ、全部ユズを取っちゃうという。それを地域でやってもらえれば多

分できると思うんですよ。特に人里なんかほとんどないんでね。そうすれば多分、人里のサルがもっと減ると思います。難しいんですけども、何人か仲間がいれば、10本や20本だったら取れますから、そういうボランティア的なものを啓発してもらえれば結構かなと思うんですけど、そうすると、我々も助かるんですね。サルが減れば減るほど、そしてそれからもう一つ、捕獲しますね。捕獲の問題、これについてはやっぱりサルの楽園を作るために餌が必要だと思うんですよ。そうするとユズを取って、やればいいということもできるし、それともう一つ来年は少しサルのエサのために空いてる畑にかぼちゃを作らせたかどうかと思うんです。そうすればエサには困らないし、我々はやりやすいと思うんですけどもそんなことも考えてますのでよろしく協力お願いします。

→【村長】

もうまさにね、農林産業係長が今やってることを質問していただきました。首輪の関係についてはどうするの、もうちょっとつけるの？それとユズとかユズだけに限らずなりものについては、人家に獣害を近づけないために村でも今伐採をするということで希望があればそういう対応をしておりますので、今後も続けていきますのでお願いします。

→【農林産業係長】

ご意見ありがとうございます。いつもお世話になっております。先ほどのお話いただいた話なんですが令和6年の6月の広報から獣通信というもの農林産業係で書かせていただいています。その中でアニマルマップというのもですね、IDとパスワード、皆さんに公開してサルはここにいるから追い払い活動お願いしますね、という記事を書かせていただきました。今お話いただいたのはですねこの檜原村に五つの群がいるのですね、サルは今人里に来てる群っていうのが通称藤倉群って呼んでいる群です。アニマルマップで今どこにいるよ。位置情報を探るためにですね、首輪を皆さんつけてるサルをご覧になったことがどこかにあるんじゃないのかなと思います。その首輪というのが1年半から2年なんですね、電池の持ちが、それをですね今ここにいた群れですねちょうど7月頃を見るとローバッテリーって書いてあったんですけどもバッテリーが少なくなってるよっていう表示が出てたんですね。なので7月の末にその管理者の方で、首輪を外すことができるんですけども、このボタンを押して首輪を外しました。その外した首輪も電池が切れる前に回収に行って首輪を回収してるんですがその後、藤倉群に今つける努力はしているんですが、なかなかかからないっていうような状況です。今、そのサルが人里の方に来てしまっているんで、アニマルマップ上ではサルのマークがつかない。ここの地区に来るのにもう一つ川乗群っていう甲武トンネル周辺にいる群が、その群がですね大沢の方までまだ行ってないんですねアニマルマップをご覧いただくと、人里ぐらいまでで止まっていると思うんですね。はい。それで、はいサル対策についてなんですが、役場、行政ができること、例えば、首輪をつけるでしたり、大規模に捕獲するしたり行政しかできないことと、皆さんしかできないことがあると思

うんですね。あとの皆さん徹底的にサルが出たら花火を上げて、1時間2時間ずっと地域の外から出すため、追い払い今活動してもらっています。地域の方しかできない、あとは畑を守るために電柵を人里地区はすごくたくさん張りめぐらせてもらってるんですけども、そういった地域の方にしかできないことと行政しかできないことを両輪になってですね、サル対策推進していきたいと思ってますので、ぜひ皆様のご協力ご理解いただきたいなと思ってます。

先ほど話があったようなユズなんですけど、今年ですねクマを寄せ付けられないために放任果樹を放置されてる木ですね。切るという事業を開始しました。たくさんの方からご要望いただきまして、予算が足りない状況になっておりまして、今年はカキとクリを中心に檜原緑(力)で切ります。先ほど話があったユズなんですけども例えばですね、今はやってないんですけども違う地域で、それこそ晴ノ舎さんとかにご協力いただければなと思うんですけども、みんなで放任してあるカキを取りに行くとかそういったツアーをして、それを餌にしようってしてる地域も全国の中では数ヶ所だけあるんですね。先ほど話のあったような、檜原村でもですね、そういったものを企画して、みんなでそのユズを先ほど落とすとかですね。サルが地域に来ないように、プラスそれが餌になるように、また檜原村にたくさんの方がお越しいただくようにって言ったことが今後できないかなというのはまさしく考えていたところでした。なのでこの人里地区は皆さんの結集力が素晴らしいところだなと思ってますので、ぜひそのようなときにはお力添えいただきたいなと思ってます。またかぼちゃを作るっていうのも多分してくれるんじゃないかなと思っておりまして、よろしく願いいたします。

■クマについて聞いてみたいのですが、いないのは、それはどこに行っちゃうんですか。クマを寄ってこないようにする。

#### →【農林産業係長】

今餌場に、過去に価値がある餌場だと思っているクマにとったら価値がある。作ることはできないんですが、ここの地域におりてきても餌がない、餌場の価値がないって思ったらクマは降りてこないって言われてるんですね。クマはかなり移動距離がありますので檜原で以前つけたGPSで、大町まで長野県に行ってるとか300km移動する。中にはいるんですね。はい東京都の事業で檜原の矢沢でとれたところに一つGPSつけてるクマがいるんですけども、それ死んじゃったんですけど亡くなっちゃったんですけども、それかなり移動してました。はい餌場にすごく執着をしますのでここに地域に降りてくれば餌があると思えばクマは来ます。降りてきます。だけど餌がないと思ったらこの地域には価値がないので降りてこない。そのために木を切るというような対策をしています。来ないでねってよりも、もう来ない、来てもしょうがないっていうふうに。ただ先ほどお話のあったように、カキの木にしろ、道路上にある木にしろ、所有者さんがいらっしゃるので、所有者の方の意

向がなければ切ることができないって歯がゆい思いをしている場所はたくさんあります。

→【村長】

何かありましたら動物のことは農林産業係長が一手に引き受けていますので、農林産業係長の方まで連絡をいただきたいと思います。

■今ちょっと農林の皆さんもいらっしゃってるんでお聞きしたいんですけど、檜原村のひのじゃがくんの紙袋についてちょっとお聞きしたいと思っています。今ジャガイモの取れたシーズンですので、ジャガイモを入れたり、農産物、私どもの販売してるんですけども、それ以外の加工品も入れて、販売のときにお客さんに渡せたらいいなと思ってんですけども、今のところ農産物に限るっていうことだったので、私は今ちょっと観光協会の方からいただいているんですけども、もしかしたらその檜原村のPRにすごくなる紙袋だなと思ってまして、お客さんもその紙袋が入ってる方がいいって言うんですね、私どもも自分ところでオリジナルのものは作れるんですけども檜原村のせっかくのPRになる材料ですので、これを農林の扱いにしないで、檜原村全体のPRとして広報として、何か企画財政の方の担当にいただければ、皆さんが例えば全然関係ない農産物だけじゃない、工芸品とかにも使えたら檜原PRになるんじゃないかなと思ひましてちょっとご検討いただければなと思っています。

→【副村長】

今ですね、このひのじゃがの袋については農産物ってことでやってるんですね。ただそういうお話がある中では、やはり考え方を少し変えながらですね、そうすると今こちら農林産業係でやってるんですけども、企画というようなところとも相談しながら実際使えればなと思うんですけども、ちょっと検討させていただいて。

→「司会」

もし質問をしていない方いらっしゃったらどうぞ。ぜひあと15分ぐらいになってしまったので、あと1問か2問になるかなと思います。質問してない方で、もしいらっしゃらなかったらよろしいですか。どうぞ

■人口減対策ということでいろいろお話がありましたけれども、実はちょっと先日の議会の動画はもう配信されてるんですが、ちょっと私まだ見れてないので、一般質問の中でこの話いっぱい出てたようなんですが、ちょっととんちんかんな話になったら大変申し訳ないんですけども、やはり実は私どものお店に来られた友人で、子育ての世代がいまして、移住しないかって誘ったらですね、学校がないじゃんって話になったんです。学校あるよっ言ったら、北秋川まで行かなきゃ駄目じゃん今檜原小中に行くのは要するに人里あたり

住んだ場合に不便だねって話になったんですね。これやっぱり南秋川系にそういうその学校の施設のものを何とか、例えば分校の復活というような考え方で、できないもんだらうかと今 IoT の技術を使って例えばコロナのときに学校で、そのテレワークじゃないですけどスクールのことをやったことはあるんだらうと思うんですけども、そういったような技術を使うこと、あるいはその施設がどこにあるかっていうところで言ったらこういうコミセンのようなものを活用できるのかなというふうに素人考えで思うんですがもちろん実際に学校に行くことによる子供たちの交流というのは大事だと思うんですけども、それがマストであるから、南秋川系に住むのをためらう人っていうのがやっぱり人口減に対してはもしかしたらハードルになってるのかなと、それだったら例えば何かそういう形で南秋川系にそういう展開ができれば、少なくとも北秋川のあの辺にしか行けないよなというふうに思ってる人たちの考えを変えられるんじゃないかなというふうに思うんですね。荒唐無稽な意見でしかないかもしれませんが、将来の檜原村の存続のためにですね、やはり人口減というものを何とかしなきゃいけない。でもそれはやっぱり抜本的な発想の転換が必要ではないかというふうに思います。ぜひそういうその段階では教育という問題やっぱり外せない話だと思うので、ぜひご検討いただけたらというふうに思います。

→【教育長】

貴重なご意見ありがとうございます。南の方に移住してきて学校に通うのは大変だという意見については、今回初めて聞きました。

■私の友人で、こっちの方に引っ越したいなっていう、ちょうど小学生か中学生だったので、ぜひ行ったら、よく調べたらこういうことだね。

→【教育長】

私もびっくりしました。今のお話がなかったもので、ただ通学に関しましてはバスで通学していただいて南のバスもですね弘沢の滝入口までは回るようになっております。特に不便をかけることは今までなかったと思います。いろいろ情報も発達していますので、現在タブレットを 1 人 1 台持たせてますので、そんなことも考えれば常時ではないですけどたまには別のところで学習してもいいのかなと考えますけども、ちょっとその辺のところは学校の方ともですね調整をさせていただいてこんな意見がありましたよということでちょっと検討させていただくということでご理解いただきたいと思います。

【司会】

あといかがですか。もしないようでしたら時間がそろそろ迫ってますので、よろしいですか。それではご意見等もないようでございます。本日はですね、皆様から多くのご質問、ご意見ご要望ありがとうございます。最後に、村長から皆様へお礼の挨拶をもって終了したいと



思います。村長よろしくお願いします。

【村長】

一番最後に質問を受けた件なんですけどね。村では、また私を含めてですね移住定住政策をこれからいろんな形でやっていきたいという気持ちでいます。そして住宅を作ったり、一極集中するんじゃなくて各地域でも住宅が必要だなということで作っていたときには、今言ったようなご意見が近くに学校があった方がいいなということで、そんなことがあると思いますけども今スクールバスは出してないんですけどもバス自体ここから、せいぜい 20 分ぐらいで行けますので、それほど不便をかけてないのかなって私は思ってるんですけども、昔は小学校 8 校ありましたのでね、歩いて行ける範囲内に小中学校があったということでそういう時代もありましたので、その辺も教育委員会の方で検討していただきたいと思います。そして最後のお礼なんですけども本日はお忙しいところ、対話集会に出席をいただきましてありがとうございました。皆様からいただいた要望、ご意見につきましては村政運営に反映させていただきます。これからもですね住民に開かれた新しい檜原村を築くために皆様のご指導をよろしくお願いしたいと思います。本日は夜にも関わらず、大勢とは余り言えなかったんですけども参加をいただきまして本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。ありがとうございました。